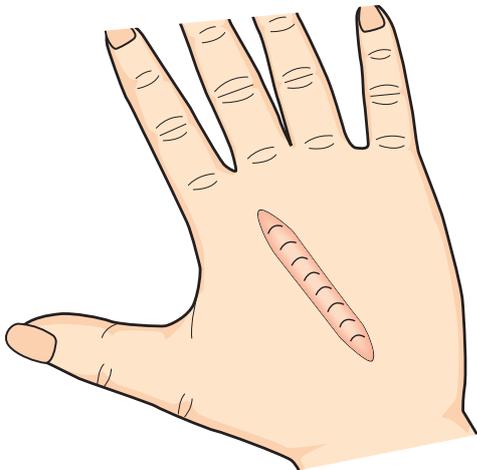


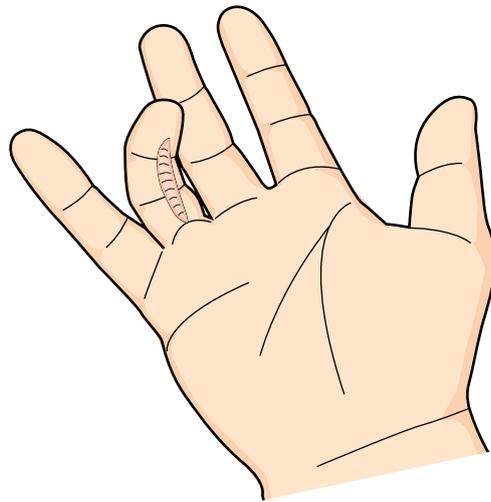
はん こん はん こん こう しゆく
瘢痕・瘢痕拘縮

● 症状 ●

けが、やけど、手術などの後にはきずあとが残りますが、それが目立ったり、ひきつれたり、赤く盛り上がったたりすることがあります。痛みや痒みを伴うこともあります。きずあとを「瘢痕」、きずあとのひきつれを「瘢痕拘縮」、盛り上がったきずあとを「肥厚性瘢痕」と呼びます。



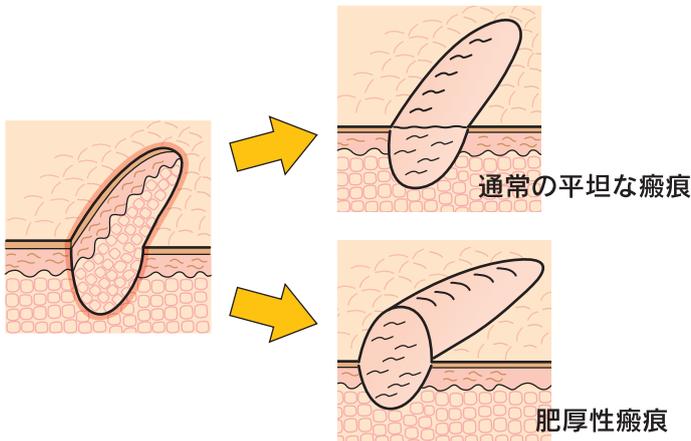
赤く盛り上がったきずあと
 (肥厚性瘢痕・ケロイド)



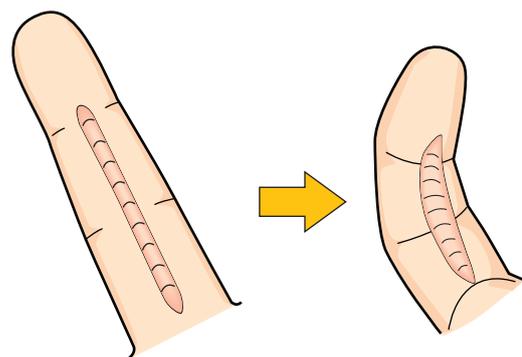
瘢痕による皮膚のひきつれ
 (瘢痕拘縮)

● 原因・病態 ●

きずが治る途中や治った後に、皮膚の中のコラーゲン線維が正常よりも多く作られたり縮んだりすること、毛細血管が広がって太くなっていることなどが原因です。とくにしわと直交(直角に交差する)する傷では生じやすくなります。半年程かけて自然に少しずつよくなっていくことが多いです。



きずの治る過程



拘縮の発生

● 診断 ●

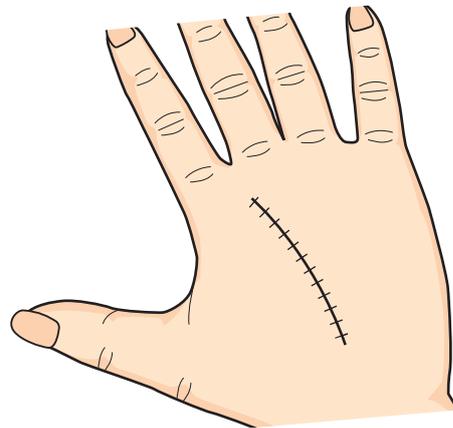
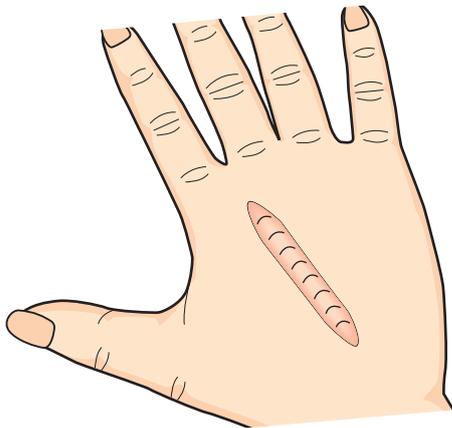
きずあとの色や形、ひきつれ、関節の動きのほかに、痛みや痒みなどの自覚症状などから診断します。

● 治療 ●

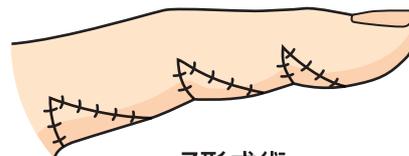
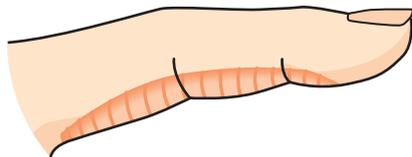
けがをしてから半年程は自然によくなるかどうか様子を見ます。

症状が強い場合は、塗り薬、スポンジやテープによる圧迫、副木、装具などによる固定をすることもあります。

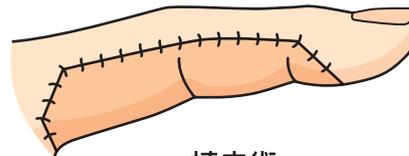
きずあを切り取ったり、足りない皮膚を身体のほかの部位から移植して補ったりする手術をすることもあります。



瘢痕切除術



Z形成術



植皮術

